

ベネズエラの豪雨被災者救おう

派遣経験ある技術者ら募金活動

同僚、知人ら賛同

『AMDA』に205万円寄付

南米ベネズエラの豪雨災害被災者を救おうと、かつて国際協力事業団で同国に派遣されていた技術者らでつくる「ベネズエラ派遣JICA専門家会」が寄付を募り、二百五十六万四千四百八円を、現地で医療救済活動を実施した国連NGO「AMDA」に贈った。募金は四月末まで続け、第二次分としてAMDAに渡す予定で、専門家の竹内洋市長は二日間で二年分の雨が降り、二十世紀最大の豪雨災害とも言われている。その割には日本ではあまり知られておらず、実情を知らせて広く協力を呼び掛けた」と話している。

第二次分、来月末まで募金

ベネズエラでは昨年十二月十五日から十六日にかけて、豪雨により川のほんらんや山崩れ、土石流が幾所でも起きた。せひ現状を知り、倒壊家屋十五万戸、死者三万人、被災者五十万人の被害が出た。

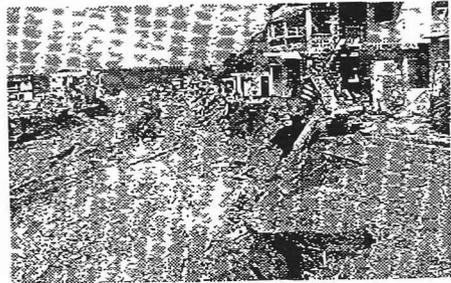
このニュースを聞いた専門家が幹部らが昨年末、「援助をしたい」と、寄付を募ることに。「お金の行き先がはっきり分るところに渡したい」と寄付先を探していたところ、発生直後に現地入りして医療活動を行ったAMDAの存在を知った。

一九七九年から八二年ま

「してほしい」と呼び掛けた。会員約五十人が、それぞれの職場や知り合いに声をかけたところ、これまでに個人三百八十七人、十組織が募金に応じた。

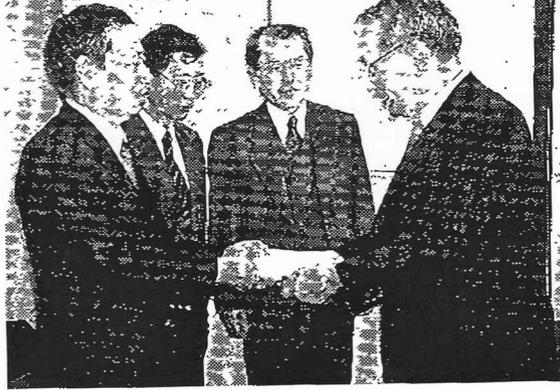
AMDA名誉顧問の岩本淳さんによると、AMDAは災害直後、日本人の調整員一人とボリビア、ペルー支部の医師、看護婦計五人のメンバーを派遣。土石流で道路がえぐり取られたり、集落が半分流されたりしていた被災地で十七日間活動し、約三百五十人を診療した。「活動は赤字なのに、とてもありがたい。今回の寄付は、ベネズエラに充て、同国の医師や看護婦に参加を呼び掛けたい」と、岩本さんは話している。

義援金は「ベネズエラ派遣JICA専門家会」(郵便振替00170:9114506)へ。



ベネズエラ道路で押し流された道路(AMDA提供)

一九七九年から八二年ま



AMDA名誉顧問の岩本さん(右)に寄付の振込用紙の束を手渡す竹内会長(左)と専門家のメンバー(中)と代田区で

2日間で1年分の雨量

9へ。